

草津市が先駆けとなったスクールロイヤー と コロナ禍明けの学校教育について

弁護士 峯本 耕治(草津市学校問題サポートチーム スーパーバイザー)

草津市の学校サポートチームの一員として、毎月、先生方からのご相談をお聴きするようになって15年近くが経過しました。2015年からは文科省によるスクールロイヤー制度がスタートしましたが、この草津市の取組は、その先駆けとなる取組でした。いじめ対応の法的義務化、保護者対応の困難化、学校事故リスクの高まり、子どもの問題の背景にある児童虐待問題の深刻化など、学校教育においても法的・危機管理的な視点が求められる事案が増加してきたことが背景にあります。私自身も、チームの一員として、先生方と一緒にケースのアセスメント、プランニングをすることにロイヤーとしてのやりがいを感じています。これからも遠慮なくご相談いただければと思います。危機管理の視点からは、予防的な対応や問題発生時の適切な初期対応がポイントになりますので、先生方だけで抱え込まれることなく、是非、早めにご相談ください。

私がスクールロイヤーの活動において大切にしている価値は、「学校を子どもにとって愛情・安心・安全の居場所に」という思いです。子どもの社会的自立に向けた成長発達を保障するためには、「虐待や暴力、いじめ、体罰その他のハラスメント、事故等の不安のない安心・安全の環境」と共に、「子どもが愛されている、大切にされていると感じることができる居場所(愛着・信頼関係)」「少しでも自尊心が満たされる、自信を持てる、楽しいと感じることができる居場所」「対人関係スキルの学びその他の発達保障に向けた様々な刺激と学びの居場所」のいずれもが重要であると確信しているからです。

過去3年にわたるコロナ禍は、家庭のストレス増大による虐待環境の悪化、学校における交流機会の減

少と劣化、学習環境と遊びの環境の劣化や格差化を招き、残念ながら「愛情・安心・安全の居場所」、「発達保障のための居場所」のいずれに関してもマイナスに働いたと思います。これが、今後様々な形で子どもの学校生活における問題や課題として現れてくることになると思います。

特に、今一番気になっているのは不登校の増加です。コロナ禍の3年間に学習・対人交流・遊びのいずれの面においても学校の居場所機能(求心力)が低下したことに加え、何よりも、学校に行かないことが普通になってしまったこと、他方で一人一台のスマホ時代により動画・ゲーム等への依存が極めて簡単に生じるようになったこと等が原因として指摘されます。この不登校の増加は放置すると、学校教育を崩壊しかねない危険があると思います。

これからの数年間は、コロナ禍の3年間のマイナスを取り戻し、学校の求心力を回復するための積極的な取組が先生方に求められることになると思います。危機管理視点・SSW視点からは、不登校の防止には、①早期のアセスメント(スクリーニング)により不登校となりやすい子どもを早期に発見し、声掛けや個別の愛情確認により教師とのつながりを強化すること、②遅刻や欠席が出始めた時には、より早期に、チーム対応により原因のアセスメントとプランニングを行い、不登校の原因となった子どもの不安や不信等の具体的内容を理解した上で、つながりのある教員等からの早期の積極的な働きかけが必要になります。

私自身もスクールロイヤーとして、学校サポートチームの一員として、そのような学校の取組に貢献できればと考えています。



スキルアップ支援講座

●第4回スキルアップ～研究授業を進めています～

スキルアップ支援講座では、8月後半から9月にかけて、アドバイザーが訪問して、対象の先生と共に、研究授業の構想を検討しました。そして、9月後半から、各学校で研究授業をすすめているところです。

先生方は、1学期に立てた授業改善のめあて、また OJT 推進リーダーの授業参観から学んだことを参考にしながら、自分なりに工夫した指導計画を立て、研究授業に臨んでいます。特に、スキルアップ支援では、年度当初に先生方に示した3つの観点（『主体的な学びのための課題づくり』『対話によって学びを深める発問を工夫』『ICT活用とその効果』）を意識しながら授業改善に向けて努力しておられる先生方の姿があり、今後の草津の教育をリードしていただけるものと期待しています。

また、学校により学年や教科の先生方、また管理職の先生方も研究授業を参観され、授業後の研究会でも、様々な視点から意見やアドバイスをさせていただくことで、授業をしていただいた先生方の更なるスキルアップにつながっています。



3年生社会科『お店ではたらく人々』の学習で、取材したことを整理して、ポスターに仕上げるための編集会議の様子です。タブレット上に自分たちが作ったメモを並べ、意見を集約したり付け加えたりして、よりわかりやすいポスターになるよう話し合いました。



2年生算数科『かけ算』の学習です。授業者は、子どもたちに「自分の考えをわかりやすい言い方や図などで表すこと」を上手に促しておられました。そのような働きかけが子どもたちの『主体的で対話的な学び』を実現し、『算数・数学の見方・考え方』を育てていきます。

ICTスキルアップ



児童・生徒の考えを生かす授業展開

～「ムーブノート」を活用する～

社会科で児童の疑問や課題を集める、道徳科や国語科で考えを出し合うなど、学級全員の考えを集約、分析しながら学習を展開できます。

通信速度の改善でスムーズに学習が展開できますので、まだの先生もぜひ活用してみてください。





第2回草津市教職員自己啓発講座 (図画工作科)

秋の作品展に向けて6 ～いきいきとした表現へ 導くために～

9月9日(金) 老上小学校 教諭 山田 和美 さん

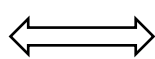
図画工作科で作品づくりを行うときの指導者のポイントは?

同じテーマでも、指導者の切り口でいろいろな作品ができる!

○指導者は、指導計画のとき(作品づくりに入る前)に、発達段階に合わせて、どこをねらい、何が必要かを考え、どのような指導をするのか、しっかりと持っておくことが大事!

〈指導者がはっきりさせておきたいこと〉

「教えるところ」
(教師が指導すること)



「任せるところ」
(子どもにゆだねること)

○図画工作科での作品づくりは、休み時間の自由帳へのお絵かきとは違うので「何でもいいよ」にならないようにする。評価をするためにも、指導者は、教えるべきところは教える。

○一方で、作品に対して造形的な見方・考え方(自分なりの意味や価値を見出す力)を育むために子どもの発想やアイデア、思いを大切に、子どもに任せるところをつくる。→自分らしく表現!

<教えていただいた実践アイデア(一部)>

紙の向きは縦?横?
迷ったら縦で!
(奥行きが出せるよ!)

建物などを描いたら…
生き物を登場させよう!
(無機質な絵にしない)

線路などの線は
二本線で描く!
(色が塗りやすいよ!)

黄ボール紙では、白色が
基調のモチーフが最適
(牛や羊など映えるよ!)

作品で意識するのは…
中心、周り、時刻(いつ)
目立たせないもの
(時刻で色を決めよう!)

描いたものを切り取って
紙に貼る活動は構図を
考えるのに有効!
(貼る位置を動かせる!)

クロッキーは…
小さな紙で短時間に!
繰り返しが効果的!
(続けると上達するよ!)

パスで色を塗るときは…
しっかり塗り込み、隙間
の白を残さない!
(力強い表現になるよ!)

その他にも…

中心のもの大きさは、
実物と異なってよい!
(子ども目線の絵に!)

同じ色を使いたがる子
には、色にふれる経験を!
(段階的に指導しよう!)

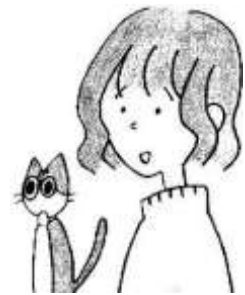


- ★ステンシルの技法 (クレパスと指と型紙でオーロラの線が描けます!)
- ★バブルペイントの技法 (シャボン玉と絵具とストローで泡の世界が広がります!)
- ★レントゲン技法 (見えない内部を透かして楽しい空想世界を表現します!) などなど

参加者の感想 満足度 ★★★★★…11名 ★★★★★…1名

- ・下書き段階の絵のアドバイスを具体的にいただき、何を描き足していけばよいか、よくわかりました。子どもの表現を生かして、伸び伸びした作品になるように頑張ろうと思います。
- ・子どもに適切な描き方やアドバイスの仕方を学ぶことができました。教師側がねらいをしっかり持って指導計画を立てていきます。
- ・子どもに委ねながら、没頭する作品が作れるようにしていきたいです。





自傷について

ここ数年、子どもたちの抱えるストレスはどんどん大きくなり、リストカット（自傷行為）も小中学校において、低年齢化や件数の増加、広がりを見せています。SNS、メディア等の影響も大きいと思われます。

自傷の理由について、子どもたちは『自傷は私の安定剤』『知らない間に切っていて、血を見るとホッとする』『見えない心の痛みを見える痛みにする耐えられる』『死ぬためじゃなく生きるため』と言います。このように自傷は『誰の助けも借りずにつらさに耐え、苦痛を克服するため』とも言われますが、最終的に自殺へのハードルをさげてしまうことにつながり、正しい周囲の対処が必要です。

支援の目標	≠ 「早く自傷を止めさせること」
	= 「そこに至る背景をさぐり、少しでも本人の辛さを減らすこと」
	「困難な環境の中で希望を見つけられるようになり『自殺』を防ぐ」

自傷には外傷時に、内因性オピオイド（脳内麻薬）が分泌され鎮痛効果をもたらし心の痛みを和らげてくれるという依存メカニズムに関する仮説があります。また、「これは仕方がない」と思えるような納得できる理由が見当たらないこと、「状況はこれだけよくなってきてるやん」「これくらいのことで…」「なんで今？」と思ってしまうことが多々あります。薬物依存と同様に、苦しい時だけでなく平穏な時にも脳内麻薬の分泌を脳が求め、禁断症状が出てしまい、切らずにはいられなくなる。そして、自傷を止められないことで「自己嫌悪」に陥り、更にストレスが増すという悪循環…最初は気持ちをコントロールするはずの自傷だったはずが、自傷にコントロールされる状態になっているのだろうと考えられます。

周囲の反応として、大げさな反応、騒ぎ立てること、逆に無視することはNGです。驚きドキドキする気持ちはぐっと抑えて、冷静な外科医の様に優しく手当てをし、丁寧に「よく話してくれたね」と話せたことを褒めてあげる。そうして「援助希求能力」を伸ばしてあげることが必要です。また、自傷は若者が高い密度で集まっている場所、厳しい規律で管理されている環境では短期間で伝染が拡大しやすく、ここにも注意が必要です。



本人の状態によっては、先生や親が早めに気付き、正しく対処することで自傷が止むこともありますが、残念ながら短期間では解決しない場合がほとんどです。また、その関わりは薄氷を踏むような緊張感が高いものです。支援者には、思っている以上の負担やダメージがかかっています。自分一人で関わることは危険です。最初は、一人の先生しかダメでも、少しずつ責任や役割を分担できる体制をとっていくこと、支援の層を厚くして、自分が関われなくなっても次の人にと支援の輪を広げていくことが大切です。



解決はなかなか難しいかもしれませんが、『あの時先生に話してよかった』『人に話すとほっとする』という経験を積むことができれば、次に行き詰った時にも『相談してみよう』と思えるでしょう。そのことが彼ら彼女たちの命をつないでいくことになります。





やまびこだより



“沖縄の伝統工芸 チブルシーサーの焼き物に挑戦！”

7月の「型絵染め」に引き続き、滋賀次世代文化芸術センターさんの協力を得て、文化芸術体験の一環として9月22日に信楽にあるMIHOミュージアムや陶芸の森の先生とやまびこの子どもたちとで沖縄の伝統工芸品であり守り神であるシーサーづくりに取り組みました。今回は頭部を中心としたチブルシーサーの焼き物に挑戦しました。焼き上がった子どもたちの作品は11月の展覧会に展示する予定ですので、ぜひ見に来てください。

出来上がった
チブルシーサー



やまびこ 秋の展覧会♪



日時：11月11日(金)～11月18日(金) ※土、日を除く
(18日は午前中まで)

場所：教育研究所 2F 研修室

子どもたちのすてきな作品が並びます。どうかご覧になって芸術の秋を楽しんでください♪

まずは安心できる空間を！

やまびこ教育相談室へ

不登校の子どもたちの多くが、行けるものなら学校に行きたいと思っています。登校できない自分に対して罪悪感をもち、自己嫌悪にさいなまれている子どもがほとんどです。まずは重圧感を取り除いてあげることが先決だと思います。

やまびこ教育相談室では、子どもたちの面談や小集団の活動を実施しています。指導員は、子どもが自分の思いを表出できるように信頼関係を構築し、安心できる空間づくりに努めています。不登校や不登校傾向の子どもたちや保護者の方々にやまびこ教育相談室をご紹介します。先生方からのご相談もお待ちしています。

シリーズ

司書さんおすすめの絵本



「のんびりやのコアラ」(ジム・フィールド/え、トゥーヴァージンズ)

いつもおんなじでかわらないことが好きなコアラのケビン。たくさんの動物たちから一緒にあそぼうと誘われても絶対に木の上から降りようとはしません。変化を恐れて、同じ毎日をずっと送っていたケビンですが、ある日、思いもよらない変化がおき、新しい風が吹き始めました。

自分の殻を破って新しいことに挑戦しようとするきっかけを作りたい人におすすめです。

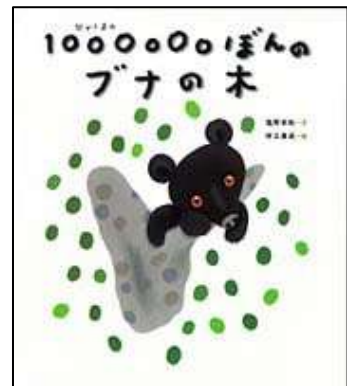


「1000000 ぼんのブナの木」(村上 康成・え/ひかりのくに)

ブナの木には、1000000 ぼんのともたちがいるんだとこぐまの目線で始まるこのお話。ブナの木山の四季折々の姿とそこに住む動物や鳥たちが描かれている。

夏には1000000 セミが鳴き、秋には1000000 ぼんのおしゃれにためいきがでる。やがて冬がやってきて、雪が降り続く。そして、雪がやみ、風のおいぐすぐたくなると、1000000 ぼんのブナの木が春の支度を始める。

寒い冬が来ても暖かい春が必ず来るんだとおしえてくれる絵本です。



「かまくらレストラン」(真珠 まりこ・さく・え/教育画劇)

真っ白な雪の中にかまくらがひとつ、ぽつんとたっています。雪のふる冬の間だけあいているかまくらレストラン。中では、おばあさんがお米の粉をねって、丸めてお団子を作っています。そして、小豆を柔らかくなるまで“ことことことこと” にています。

おばあさんのつくるおしるこは、ほっぺたがおちるほどおいしくて、食べ終わったら、体がぽっかぽかになります。どんな人が食べに来ているのかな。

心も体もぽっかぽかになる心温まるお話です。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

